

令和8年度 町政執行方針概要



町長 横山 茂

3月10日に開会された第1回定例会で、横山町長が令和8年度の執行方針について述べました。

今回の広報では、その主要な部分を掲載いたします。全文をご覧になりたい方は、役場総務財政課までお問い合わせください。

私は「平成」から「令和」に改元された年の統一地方選挙において、町民皆様や各団体の皆様から力強いご支援をいただき町政運営を託していただいていたから、2期8年の最終年度を迎える年となりました。

町民皆さまがいつまでも安心して暮らし続けることができる「住民福祉の増進」を基本とした中で、就任時にまちの将来像を「子どもたちが誇りをもてるふるさと創造沼田町く夢とやさしさにあふれる小さなまちの大きな挑戦」と掲げ策定した「沼田町第6次総合計画」の計画最終年度であり、重点的かつ優先的な取り組みとして掲げた8項目について「第3期沼田町総合戦略」と整合性を図った上で取り組みを強化し、持続可能な

まちづくりにより将来に繋いでまいります。

また、令和8年度は、本町開拓の祖であります「沼田喜三郎翁」のご縁により、富山県小矢部市から伝承をいただいた、「夜高あんどん祭り」が50回目を迎えます。

この大きな節目を契機として北海道を代表する祭りへと、さらに広く認知いただけるよう取り組みとともに、持続可能な運営体制の構築を進めてまいります。

さらに、基幹作物である「米」を道産米のトップブランドへと押し上げた「雪中米」誕生30周年の記念の年でもあります。雪冷熱の活用によるゼロカーボンへの取り組みを一層推進し、「沼田町食料貯蔵流通基地構想」の実現を含め、多方面にわたり施策を深化させながら「将来につなぐまちづくり」に努めてまいります。

健康づくりの推進

「第2次沼田町健康増進計画」に基づき、町民一人ひとりが健康的な生活習慣を身につけ主体的に健康づくりに取り組み、いきいきと

自分らしく生活することができるよう、栄養や食生活、運動、こころの健康づくり等の分野ごとの対策に取り組み、自らが健康寿命の延伸を目指し、生活習慣病予防及び重症化予防の徹底が図られるよう、各種健康事業への参加や特定健診、各種がん検診の受診に対し行政ポイントを付与することで受診勧奨に努め、町民皆様の健康意識の向上に努めてまいります。

○高齢者福祉・介護の充実

第10期介護保険事業計画（令和9～11年度）の策定に向け、高齢者等へのニーズ調査の実施や必要となる介護サービス量の算定をするとともに、高齢者福祉施設の老朽化や厳しい運営状況を鑑み、住み慣れた地域で「住まい」「医療」「介護」「介護予防」及び「生活支援」を地域内で一体的な体制づくりの指針とする、沼田版CCRC構想策定に要する所要額を予算計上いたしております。

第9期介護保険事業計画の大きな柱の一つである「認知症」の取り組みについては、保健福祉課内

に開設した「認知症相談窓口」を核として、認知症の理解・知識を深める「認知症教室フォーシーズン」を開催し、地域で支え合いながら社会生活を営むことができるまちづくりを推進してまいります。

○子育て支援の充実

「第3期子ども・子育て支援事業計画」に基づき、母子ともに健康で健やかに成長発達ができるよう「妊婦一般健診」や「産前産後安心事業」などと、子育て応援アプリ「ぬまたっこ手帳」を活用し、タイムリーな子育て情報の発信や予防接種AIスケジュールなどICTを活用した専門科医によるオンライン相談などの各種子育て支援事業を展開し、子育て世代のニーズに沿ったサポートに努めてまいります。

沼田認定こども園については、子育て環境充実のための一翼を担っていただいておりますが、配慮を要する園児に対処しきめ細やかな保育体制を継続するため、加配保育士としての役割を担う2名分の人件費を補助することとしてお

ります。また、新たに発達に悩みを抱えるお子様の療育、発達支援を目的とする多機能事業所（児童発達支援、放課後等デイサービス併設）「沼田認定こども園発達支援室ほぷら」の4月開設に向けて準備を進められており、地域での子育て支援の充実に期待を寄せております。

○農業の振興

政府は令和9年度からの水田政策を抜本的に見直し、「水田を対象としての支援」から「作物ごとの生産性向上等への支援」へ転換するとして検討を進め、本年6月には具体像を示すとするとともに、本年4月に生産費を考慮した農産物の価格形成に向けた「食料システム法（食品等の持続的な供給を実現するための食品等事業者による事業活動の促進及び食品等の取引の適正化に関する法律）」が施行され、価格交渉の材料となる「コスト指標」の策定も進められておりますが、米の民間在庫については適正水準とされる量を大きく上回るとの予測も示され、基幹作物

である米及び畑作物を巡る情勢は不透明さを増しており、担い手の確保と持続的な地域農業の発展のためセーフティネットの充実も含め、米政策全般における今後の検討推移に注視し、関係機関・団体と連携し必要な対策を進めてまいります。

○沼田町食料貯蔵流通加工基地構想について

米の備蓄制度については、現在は全量を政府が保管しておりますが昨年の政府備蓄米売渡しにおける課題の検証を踏まえ、より円滑に供給できるよう民間備蓄の導入、保管期間の短縮を含めた検討が行われており、国が進める「食料安全保障の確立」や「環境負荷低減」には雪冷熱エネルギーを活用した食料貯蔵流通基地の整備が有効であることから、引き続き関係機関・団体と連携し構想の実現に向けて取り組んでまいります。

令和8年度 町政執行方針概要

○雪中米誕生30周年 記念事業について

本年は、平成8年の「米穀低温貯留乾燥調製施設」の稼働とともに「雪中米」誕生から30年の記念の年を迎えます。

雪中米は、生産者皆様のご努力により、ブランド米として広く認知が高まるとともにふるさと納税の返礼品としても高い信頼と評価を得て、全国に発信する魅力的な返礼品となっており「やっかいもの」であった雪を貴重な財産として米の貯蔵に使う先駆的な取り組みに着眼し、実行された先人の先見性と、関係者皆様のたゆまぬ努力に敬意を表するところであります。

その熱い思いを受け継ぎ、次世代へ伝承し、更なる発展を図るための記念事業に要する所要額を予算計上いたしております。

○石狩沼田ブルワリー・ 沼田町ビアキッチンの 取り組みについて

沼田町クラフトビール醸造所「石狩沼田ブルワリー」は、雪中米を副原料としたライスエールを始めとするクラフトビールが好評をいただいております。ふるさと納税の返礼品としての使用を含め、特産品の一つとして、指定管理者と連携し醸造量の増産に向けて取り組んでまいります。

また、「トナリエ北広島」にオープンした「沼田町ビアキッチン」では、クラフトビールなどの本町の農産物等を使ったメニューを提供し、大変好評を得ていることと併せて「オール北海道ポールパーク連携協議会」の取り組みとして「食」と「観光」をテーマに構成市町への誘客を促進する事業を始めなど今後の展開に期待を寄せているところであります。

○JR施設の利活用に 向けた検討について

JR留萌本線の廃止に伴い、JR跡地、施設等の利活用に関して、広く町民から意見を聞きながら今後のまちづくりについて検討していくとともに、JRとの土地や建物等の物件の譲渡に関する協議を並行して進めることとし、また、譲渡協議が完了するまでの間、駅舎をJRから無償賃貸することで、何時でも、誰でも思い出深い「駅舎」に出入りすることができる環境を維持することといたしております。

○観光の振興

「夜高あんどん祭り」が今年で50回目の節目を迎え、これまでお祭りに携わっていただいた方々や関係者の皆様に感謝の意を込めるとともに、「夜高あんどん祭り」が永きにわたり開催できることを願い記念事業を開催する経費を予算計上いたしております。

また、石狩沼田駅周辺を含めた中心市街地の活性化に取り組んでいただいている「沼田町駅未来協

議会」からJR廃線後の跡地利用についての提言を参考とし、現在の駅舎を「まちの駅」として残していけるよう、JR石狩沼田駅周辺の整備について検討していくこととしておりますが、JRとの施設譲渡に係る協議が始まることから、JR石狩沼田駅舎に観光協会の機能を持たせて観光案内窓口を設置するとともに「沼田町駅未来協議会」の協力のもと「沼ルシエ」の継続開催などにより廃線となった後も駅周辺の賑わいを継続させていくよう取り組んでまいります。

○企業誘致の推進

「働く場の確保」は、安定した生活と地域経済の活性化を目指すための重要施策として、企業誘致活動に取り組んできたところであり、これからも時代に即した活動を推進してまいります。

昨年「ハイテクインター株式会社」「旭川工業高等専門学校」及び「沼田町」の3者による産学官連携協定を締結し、旭川高専生徒が地域課題における解決研究の成果報告会を開催したところであります

が、ICTやAI技術を活用した共同研究・開発、実証試験の地として関連企業の誘致を促し、新たな産業、雇用を生み出す「沼田版シリコンバレーLABO構想」の具現化に向けた計画等の策定や関連企業との調整を行い、構想実現へと繋げる人材を国の「地域活性化起業者」制度を活用し、専門知識を有する人材を招聘する所要額を予算計上いたしております。

また、「長期保存おにぎり」の製造、販売を手掛けている企業が、本町への進出に向けて前向きに検討いただいていることから、地域産業の活性化や雇用創出に繋げていくためにも、企業立地促進条例に基づき補助金による支援を含め、たきめ細やかな対応に努めてまいります。

○地域公共交通

本町の歴史と共に歩んだJR留萌本線が115年の歴史に終止符を打つこととなり、4月からはバスが主要な公共交通機関となることから、バス事業者や沿線自治体などと協議を重ね、便数の確保や運

行ダイヤの調整など地域住民の利便性を最優先に考え、最大限の調整を図ってきたところであります。

バスの運行体制につきましては、朝晩の新たな路線バスとして「道北バス株式会社」に運行いただくとともに「空知中央バス株式会社」が運行する日中のバス運行につきましては、今後を見据えた中で持続可能なバス運行とするため10月より町が運行主体となる「自家所有償旅客運送バス」とすることで計画しております。

○ふるさと住民登録制度について

移住体験者やふるさと納税者、そしてJR留萌本線の廃止を惜しんで訪れる方々など、町に心を寄せてくださる皆様との「縁」を大切に考えており、こうした出会いや一過性の交流を持続可能な町の活力へと変えていくため、「(仮称)ふるさと住民登録制度」の創設を検討することとし、デジタル技術を活用による物理的な距離を超えた「心の定住」を育むことで、多様な形で継続的に関わり応援いた

だけの仲間をつくり、100年後も笑顔が溢れ活力ある町づくりを目指してまいります。

○沼田町を応援する沼田ファン交流イベントの実施について

沼田町の応援団として一翼を担っていただいている「東京沼田会」は、会員の減少と高齢化により存続が厳しい状況となっております。こうした状況を踏まえ、様々な形で沼田町を応援いただいた方々や「東京沼田会」の皆様を含む首都圏在住の沼田町出身者の交流の場を設けることによって、沼田町を応援していただける方の輪を広げ、振興発展を図ることを目的に、「(仮称)NUMATAファンクラブ」を設立し、関係人口の創出拡大と深化を図るため「沼田町を応援する沼田ファン交流イベント」を開催いたします。

○結びに

人口減少、少子高齢化社会への対応、更には先行きが不安定な国際情勢や円安を起因とした物価上昇に加え、自然災害などへの備え

など厳しい行政運営に加え「次代に繋げる」まちづくりへの深慮は続いておりますが、本年1月に発刊された宝島社「田舎暮らしの本」が発表した「住みたい田舎ベストランキング」人口1万人未満の町のカテゴリにおいて3年振りとなる全国総合1位の評価を受けたことは、町民皆様と共に沼田町の存続を願い創り上げている移住定住施策など、それぞれの努力が実を結んだものであり、このことは町政運営の励みとなっております。

私の所信である「夢と希望と誇りを持てるまちづくり」の実現に向けて、地域間での「競争」と「共創」を意識し、沼田町の持つ力を信じ、職員と共に「新たな視点」と「新たな創造」をもって「オールぬまた」で挑戦し続ける礎を築くため「細心かつ合理的判断」と「大胆かつ責任ある決断」を持つて将来の沼田町に繋いでまいりますので、町民皆さま並びに議員各位のご支援とご協力を改めてお願い申し上げます。令和8年度の町政執行方針いたします。